

最後の晩餐

神の子は 12 人の弟子達に向けて言った
自分が死ぬ運命にあるってことを

「そんな運命に従う必要はない、どこか遠くへ逃げましょう」

神の子は運命から逃げることはできない
でも、一人の弟子は納得できなかった

「神の子だから必要なわけじゃない、私はあなたが必要なのです」

(※)その言葉に人の子はどれほど救われただろう
人を救えるのは神ではない、人だけが救えるのだ

神の子は神の決定に従わなければならない
その一人の弟子は泣きじゃくり叫んだ

「そんな神なら私は信じない！ この世に神は存在しない！」

(※) 繰り返し

(※) 繰り返し

「お前は裏切り者だ」
神の子は神を否定した弟子にそう言った
うつむいた 11 人の弟子達は確かに聞いた
でもその声は震えていたのだ
その声は震えていたのだ
その声は震えていたのだ